

令和6年度 第1回三条市食育推進及び農業振興審議会会議録（概要）

1 日 時 令和6年7月30日（火） 午後1時30分から午後2時50分まで

2 会 場 三条市役所 4階 第2委員会室

3 議 題

- (1) 令和6年度の主な取組について
- (2) その他

4 出席状況

(1) 出席委員

粟生田会長、落合副会長、岩渕委員、瀬高委員、山寄委員、小出委員、田代委員、星野委員、伊藤委員、貝瀬委員、宮島委員、佐藤委員

(2) 欠席委員

山内委員、村上委員、須佐委員

(3) 職員

村上福祉保健部長

片野経済部長

健康づくり課 小林課長、梨本室長、大泉主査、小柳主任

農林課 藤家課長、目黒課長補佐、佐藤係長

(4) 報道機関 三條新聞

5 内 容

(1) 開会

(2) あいさつ 村上福祉保健部長

(3) 委員等の紹介

(4) 議 題

ア 令和6年度の主な取組について（資料No.1の食育部分を大泉主査、農業部分を目黒課長補佐が説明）

山寄委員	～質問～ 資料P13 評価指標について、令和11年度の目標値が令和5年度から下方修正された様な数字になっている理由は何か。
目黒課長補佐	中山間地域農業は、将来維持も難しくなるとの予測で、令和4年度の数字を維持することを目標として設定した。

小出委員	資料 P2 評価指標「主食、主菜、副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合」で中学1年生が令和5年度は策定時より数字が下がった理由は何か。
田代委員	資料 P3 共食の推進の評価項目「平日の朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数が週7回以上の中学1年生の割合」が令和5年度は85.9%もあるのに、先ほどの数値が下がっているのはおかしい気がする。給食もあり親と一緒に食べていけば、1日2回は主食、主菜、副菜をそろえて食べている生徒はもう少しいるのではないか。
大泉主査	<p>資料 P2 の評価指標については、令和4年度と令和5年度で基にしている数値が異なる。令和4年度は生活実態調査の数値だが、令和5年度は生活実態調査で該当項目が調査できなかつたため、代替の数値として、食育授業の中で朝食調査をした時の数値となっている。調査方法が異なるため比較はできないが、参考値として掲載している。</p> <p>また、田代委員のお問いについて、これまでは主食、主菜、副菜をそろえて食べる習慣を聞いていたが、令和5年度は調査日の一時点での朝食において主食、主菜、副菜がそろっている割合を聞いているのでこれだけ低くなってしまった。今回の数値は、共食の頻度とはリンクしない部分があるかと思う。</p> <p>お問いの指標項目は、令和6年度以降に数値を設定する項目である。令和4、5年度については、「主食、主菜、副菜をそろえて食べている人」の割合を聞いていて、そろえているのが1日2回以上となっておらず、現計画の評価項目とは異なる。指標項目を変更した理由は、国の計画において、令和6年度以降に新たに指標項目を変えて設定することとなっていたため、今年度から国の指標に合わせた質問項目に修正してデータ収集を進めている。</p>
小出委員	混乱するので、比較できない数値は入れない方が良いのではないか。
栗生田会長	公の場に出すときには、混乱が無いよう事務局の方で修正をお願いしたい。
佐藤委員	資料 P10 について、2点質問がある。1点目は、主要施策の主な取組のところに「収益性の高い園芸作物への転換、拡大の支援」とあるが、消費者として三条市であまり園芸作物という印象がないので、具体的にどのようなものを三条で園芸作物として作っているのかを教えて欲しい。2点目は、同じページの評価項目として「農業機械等の導入補助金などの支援を受けた農業者の販売増加額」が策定時から令和5年度の増加率と、6年後の目標値の増加幅が大きいと思っているので、そこまで上げる理由、見込みがあれば教えて欲しい。
藤家農林課長	園芸作物の具体的な品目としては様々なものがあるが、一般的には野菜と捉

	<p>えてもらえるといい。三条市では、県内有数の生産地となっている野菜はキャベツであるが、どの作物に取り組むかはそれぞれの経営体の中で考えるものである。今まで田んぼだけだった農家が、米が全国的に余り気味になってくるときに、もう少し収益性の高い園芸作物への転換を促していくために農業機械等の導入補助金などで支援している。特定の品目を市として勧めている訳ではない。</p>
佐藤委員	<p>園芸という言葉の意味の捉え方が間違っていて、どうしても園芸と聞くと花などをイメージしてしまっていた。</p>
藤家農林課長	<p>機械導入の目標値が急激に上がっているところは、農業機械導入補助金を受けるには、3年間の経営拡大を要件としている。そのため、農業者の方が3年間のうちに上がる収益の額を積み上げたものが目標値となっている。例えば、令和6年度の補助金であれば、7、8、9年度の売上計画を立てる。売上が積み重なっていくとこの目標の額が上がると想定している。補助金の額と一定の売上量を上げる計画を立てていくことから、それが積み上がっていくことからこの数値となっている。もう少し具体的に言うと、6年度に10の方が補助金を受け、7年度に30万、8年度に50万、9年度に70万という計画を立てた方が10人いればそれが積み上がっていく。来年度、また違う10人が3年の計画を立てる方がいればそれが積み上がっていく。まだ、補助金の制度を始めて数年なので、まだ積み上げが少ない状況である。</p>
佐藤委員	<p>農業は専門でないので、なかなか理解が難しいが、聞いていると補助金ありきで数字が出てきているイメージが単純にあるが、私の理解不足である。</p>
山寄委員	<p>今の話を聞いていると、目標値をすぐに達成してしまうのではと感じるが、上方修正する予定はあるのか。</p>
藤家農林課長	<p>目標値は三条市総合計画と同じ数値とさせてもらっているが、まだ目標には少し足りない状況である。状況を見て、上方修正または下方修正ということもあるかもしれないが、現段階ではまだ上下するという判断は必要ないと考えている。</p>
栗生田会長	<p>「園芸作物」という言葉について、例示など説明があった方が一般の方には分かりやすい。分かりやすい記載でお願いしたい。</p>
星野委員	<p>資料P4 減塩の取組について、どれも見慣れたものという印象だが、この中でアプローチを変えたものがあれば教えて欲しい。</p>
大泉主査	<p>新たな取組は無く、令和5年度から引き続きの取組が主になっている。</p>

小出委員	資料 P 3 に子どもの貧困についての記載があるが、子ども食堂であるとか子どもに食事を提供する場があると思うが、そちらに補助や支援をしているといったことはあるか。
大泉主査	市として子ども食堂に補助などを行っていることはないが、今回子どもの貧困などの要因から適切な栄養摂取ができていない子どもたちへの取組を検討するに当たり、背景を整理しているところである。今後、取組を考える中で、子ども食堂と連携して栄養教育を行う必要があれば、視野に入れて検討を行う。
栗生田会長	「しただ米」という言葉が資料内に出てくるが、一方で、資料 P10 の評価指標で「水田農業の高収益化、効率化」という言葉があり、「農産物の高付加価値化」では「しただ米」がある。地域によって方向性が違う気がするが、地域別でないと上手くやっていけない現状があるため、このような指標としたのか。
藤家農林課長	稲作の部分を中心に話をさせていただくが、基本的には農地を集積して、規模を拡大して効率化を図ることがメインと考えている。中山間地域については、農地の集積・効率化の道が難しい。そこには中山間地域特有の自然を生かした高付加価値化が必要と考えた。地域の現状を具体的に記していないが、高付加価値化というのは中山間地域の米の取組と捉えていただきたい。
栗生田会長	一様に施策に網をかける方策ではなく、レベルの高い施策と解釈したい。質問であるが、資料 P 3 「クックパッド」という言葉は使ってよいのか。
大泉主査	使ってよいと認識していた。
栗生田会長	一企業を応援するという意味でないということであれば良いと思う。
宮島委員	減塩作戦の協力店舗が伸び悩んでいるような感じがするが、この伸びを妨げるものがあるのか。
大泉主査	減塩作戦の協力店舗には、市内スーパーや小売店、最近では飲食店からも協力をいただいている。伸び悩んでいる要因については、市内スーパーからはほぼ協力をいただけたため、次は飲食店に少しずつ声をかけているところである。そのため、少しずつの増加となっている。
岩淵委員	「共食」という言葉が使われているが、病院では孤食になっていて、別の家庭の人同士で共食するとなると感染が懸念される。新型コロナウイルス感染症のことには触れられていないが、時代背景もあるのでおかしい気がしている。

大泉主査	市では、共食を「家族や友人など知り合いの方と一緒に食事をする」と定義している。御意見のとおり、感染症の心配がまだゼロではないので、地域高齢者の集いの場で心配される方がいる場合は、距離を取る、体調が悪い時は参加を控えるなどの対応をしている。しかし、交流という部分は少しずつ取り戻していきたいと考えて共食に取り組んでいる。
栗生田会長	公の場に出す時には、共食という言葉の定義を分かるように記載するのが良いと思う。
落合副会長	先ほどの「園芸」という言葉について、ホームセンターの園芸コーナーのような花や観葉植物、家庭菜園という印象を受ける。今初めて野菜ということが分かった。会長から助言があったように説明があった方が良い。
山寄委員	資料内に「野菜」と書かれると、花きや果樹の人が該当しなくなるため、全部書かないといけなくなる。農家の立場から言わせてもらおうと、水稻のように土地を大規模で使用する農家と、施設園芸と違って園芸農家という括りが二つあり、水稻・園芸となる。市民にとって「野菜」と記載することは親切かもしれないが、例えば、野菜、果樹、花き、畜産を入れるのかとか。園芸となると畜産は入らないが、詳細を記載した際に、畜産も必要ではということになる。ここでは園芸を使うのが良いと思う。仮に「施設園芸」とすると、果樹が入らないことになる。「園芸」という言葉はとても便利な言葉になる。
小出委員	会長が言われたように、「野菜・果樹など」と説明を入れたら一般の人に分かりやすいのではないか。
山寄委員	三条市に無い農家もあるので、デリケートな表現になる。
栗生田会長	農林課の方で検討いただき、市民の方が見る時には、誤解のないような表現にしてもらいたい。
佐藤委員	<p>～意見等～</p> <p>レシピサイトとしてクックパッドは有名ではあるが、今は不人気サイトの印象がある。今はレシピ動画が主流になりつつあるが、クックパッドはテキストが主流で、レシピ動画サイトに比べると使いづらい印象がある。20歳代から40歳代の人への訴求であれば、他のサイトなどの利用やSNS等の使用などの方法を考えた方が良いと思う。三条市のクックパッドのサイトを見たが、工程ごとの写真がほぼ無いように感じた。同じ手間をかけるのであれば、もう少し分かりやすく、他の方法を検討しても良いのではと思う。クラシルやデリッシュキ</p>

	<p>ツチン等のアプリや、X・インスタグラム・YouTube など SNS 等のアカウントの利用も一つの方法だと思う。20 歳代から 40 歳代はサイト検索ではなく、インスタグラムやTikTok から探す方が多いと思うので、訴求する方法を変えても良いと思う。</p>
大泉主査	<p>説明が不足していたが、クックパッドに献立を掲載する際は、三条市の公式 X や健康づくり課の公式 LINE でお知らせしている。加えて、動画についても、簡単に調理できるレシピ動画を栄養士会三条支部に協力いただき作成して、YouTube に掲載し健康づくり課の公式 LINE でお知らせしている。御提案いただいたように、クックパッドについて、作り方の写真をつけるとか 20 歳代から 40 歳代の方が見たくなるようなレシピの提案ができるよう工夫をしていきたい。</p>
佐藤委員	<p>恐らくクックパッドは、20 歳代から 40 歳代の利用率は低いと思う。せっかく動画を上げたのであれば、見てもらえるような工夫をしないと効果は上がらないと思う。</p>
岩淵委員	<p>せっかくパンフレットを配布するのであれば、QR コードを追加してはどうか。</p>
大泉主査	<p>毎月配信している食育メールには必ず QR コードを付けるようにしている。また、保育所食育推進事業の保護者講話の資料にも QR コードを付けてその場ですぐに見られるようにしている。今後、啓発用のパンフレットにも追加できるようにしたい。</p>
星野委員	<p>資料 P 4 の減塩の推進で、1 日の塩分目標量を知っている人の割合が大きく減少したのが気になって今年度新しい取組があるか質問したが、従来通りの取組を継続ということだと、改善するのは難しいのではないかと。</p>
大泉主査	<p>保育所食育推進事業の保護者講話や市内企業従業員に対する健康教育の実施を予定しているが、対象者を変えながら啓発をしていくため、その継続が大事と考えている。あわせて塩分の目標量について重点的に周知を行いたい。</p>
星野委員	<p>劇的に塩分摂取量は変わらないと思う。むしろよくやっている方だと感じている。</p>
山寄委員	<p>資料 P13 課題に、「鳥獣対策において新設した独自支援の利用がなかったため、実施者の負担について再考する必要がある」とあるが、拡充の部分には「鳥獣対策における独自支援」とある。これはあくまでも中山間地域のみの利用ということで良いか。</p>

藤家農林課長	鳥獣対策の独自支援について、電気柵の支援は中山間地域のみではない。ただし、申請は地域で取り組んでもらうことを基本としている。3戸以上の農家での取組を要件としており、自治会で申請いただくものになる。
山寄委員	それに伴い、三条市全体で使えると分かるように表現してもらいたい。
藤家農林課長	主に鳥獣被害が中山間地域で多いことからこのようにしてあるが、表現については検討していきたい。
栗生田会長	資料 P11 海外展開について載っているが、今年の直近の米状況を見ると品薄の傾向も見てとれ、米価も上がってきている。海外展開を辞めろということではないが、見通しが立たない部分もあるので、海外展開に前のめりになり過ぎるのは注意が必要かと思う。その辺のかじ取りは上の判断になると思うが、どのように考えているか。
藤家農林課長	ただ米でフィンランドやイタリアに売り込むきっかけになったのは、既にイタリアで取り引きをしている農業者の方がおり、協議会の中でパイプを増やしていこうというものである。あわせて、販売量全体をそちらにシフトしようという考えではなく、ヨーロッパは非常にオーガニック志向が強い地域なので、そういう場所で認められた米だということを、国内での付加価値に変えるという視点もある。そうした中での販路拡大であり、大幅に海外にシフトしていくということではないと捉えている。
栗生田会長	それを前面に出さない方が良いと思う。
藤家農林課長	付け加えさせていただくと、こういったトピックは私どもは前面に出していくことで付加価値につながると考えている。御心配は分かるが、そういった意図があることも御理解いただきたい。
岩渕委員	減塩に関して、今回直接関係ないが、前回の審議会の際に災害時や避難時の減塩について宮島委員から意見が出た時に、高血圧の原因は、ストレスの方が強いとか長期間にわたるものではないという話をしたのを覚えている。元日の能登地震を見ても避難の期間が非常に長期にわたることが出てきているので、避難した際も減塩をした方が良いことを、常時から伝えた方がよいと反省した。そういうものを含めて、減塩の大切さ、自分は塩分をどれくらいとっているのか、減塩の対策を含めて啓発していただきたい。
大泉主査	市では食育の啓発をする際に食育メールを出しているが、災害時のことも特

	<p>集する場面があるので、御意見をいただいた災害時の減塩についても伝えていきたい。</p>
貝瀬委員	<p>学校側の代表として出席しているが、日頃から市には食育授業や講演会など学校に入らせていただいている。小さい頃から食に興味を持つために、子どもの育成に力を入れていただけると良いと思う。</p>
伊藤委員	<p>保健所としては、減塩や健康づくりの取組をこれからもお願いしたい。米に関して海外へのプロモーションをされていると思うが、今回、佐渡の金山が世界遺産に登録されることで、県外だけでなく海外の人も大勢来ると思う。その機会を捉えられると良いのではないか。この地域には大きな道の駅が無く、地場産センターは、洋食器はあっても農産物は置いていない。食器があるところには料理人なども来られると思うので、農産物を置くのも良いと思う。</p>
瀬高委員	<p>私も5月から農業委員になったばかりで理解不足のところもあるが、農家が高齢化し、その高齢化した農家の農地を受け取る人もいなくなっている。そうすると農地も荒れて、鳥獣問題も出てくる。農業をする人を増やさなければいけない。「しただ米」を作っている人に話を聞いた際、作るのがとても大変で米に付加価値を付けないとその対価が得られないことが分かった。今回、それをみんなで応援しようということだと分かった。</p>

(5) その他（小林健康づくり課長）

次回の審議会の日程については未定ではあるが、会長と協議の上、委員の皆様へ郵送で御案内する。

6 閉 会 午後2時50分